

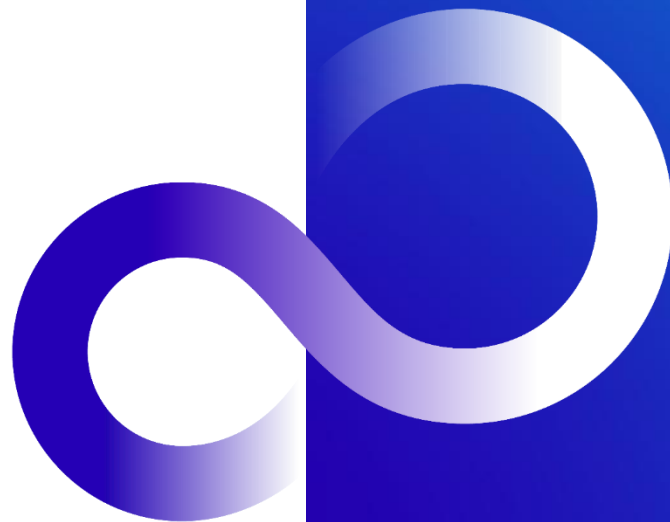
安心安全なAI社会の実現に向けて：
富士通におけるAI倫理および
AIガバナンスの実践

2025/12/23

富士通株式会社

AIインテグリティセンター センター長

荒堀 淳一



※Web公開版として、当日講演資料の中から一部抜粋したのになります。

1 | 自己紹介

2 | 富士通のAIガバナンスの取組み

1. 自己紹介



荒堀 淳一



富士通株式会社

AIインテグリティセンター長

2002年：富士通株式会社入社

2012年：同社 ビジネス法務部部長

2015年：同社 ワシントンDC事務所長

2019年：同社 デジタルテクノロジー推進法務室長

2022年：同社 AI倫理ガバナンス室長（現：AI倫理室）

2025年：同社 AIインテグリティセンター長・AI倫理室長

現：総務省AIネットワーク社会推進会議 AIガバナンス検討会 構成員

現：経団連AI活用戦略タスクフォース委員 など

2. 富士通のAIガバナンスの取組み

Our Purpose

わたしたちのパーパスは、
イノベーションによって社会に
信頼をもたらし、世界をより
持続可能にしていけることです。



富士通のKey Technologies



AIと最先端の技術を融合し、ビジネスと社会を変革します。



Computing

量子・コンピューティング技術で
AIを革新的に進化させイノベーション実現

- AIコンピューティングリソース最適化
- FUJITSU-MONAKA
- 量子コンピューティング



Network

AIによるネットワーク運用の最適制御と
先進ネットワークによる分散AIの世界を実現

- AI-RAN
- オール光ネットワーク
- ディスアグリゲータッド・コンピューティング



AI

最先端のAI技術で人の働き方や
企業経営を変革し、
ネットポジティブな社会を実現

- Fujitsu Kozuchi
- 業務特化の生成AI「Takane」
- 業務特化AIエージェント
- Composite AI



Data & Security

AIがもたらす社会・企業のリスク低減に
向けた「デジタルトラスト」の実現

- マルチAIエージェントセキュリティ技術
- 偽情報対策プラットフォーム
- AIセキュリティ、AI倫理、AIガバナンス



Converging Technologies

デジタルツインと人文社会科学が融合し
たAIで多様な社会課題を解決

- ソーシャルデジタルツイン・海洋デジタルツイン
- デジタルリハーサル
- ポリシーツイン

※便宜上の説明であり正確な定義ではありません

AI倫理 とは

公平性、透明性、アカウンタビリティなど**多様な観点**をもって
AI活用による**リスクを低減し、メリットを最大化**すること

AIガバナンス とは

AI倫理を目的とし、国際・国家、企業・組織、IT技術・システムの
それぞれのレイヤーで**取り組む仕組みづくり**

※産学官といった業種や規模に関わらず、組織が適切なAIリスク管理を行う上で
AIガバナンスの実践は不可欠です。



国際・国家レベル

法規制や国際協調を通じたガバナンス



企業・組織レベル

企業運営におけるガバナンス
...倫理指針、従業員教育など



ITシステムレベル

ITシステムにおけるガバナンス
...AI統制基準、法対応など

企業・組織ごとに、AI開発者・提供者・利用者のどの立場を取るかは異なりますが、いずれの立場においてもAIガバナンスが必要です。

AIガバナンスを「**経営陣**に要請する動き」が世界中で強まっています。

米国のAI企業が CEO解任

O社はAI倫理よりも
営利を優先したとして、
CEOを理事会から解任した。
(※現在は復帰)

引用元：[日本経済新聞「米OpenAI、アルトマンCEOが
退社へ 事実上の解任」\(2023/11/18\)](#)

米国企業の株主総会で AI倫理が議案に

A社やD社では、
事業でのAI使用に関わる報告、
AI倫理指針の開示などが
株主総会の議案として提出され
た。

引用元：[日本経済新聞「米当局、AI関連の株主提案
除外認めず Apple主張退ける」\(2024/1/5\)](#)

機関投資家が AIガバナンスを要請

機関投資家各社が、倫理リスクが企業ブ
ランドに与える影響や、取締役会による
AIの監督の必要性を指摘。監督等が不十
分であると判断した場合には取締役に対
して反対助言を行う可能性を示した。

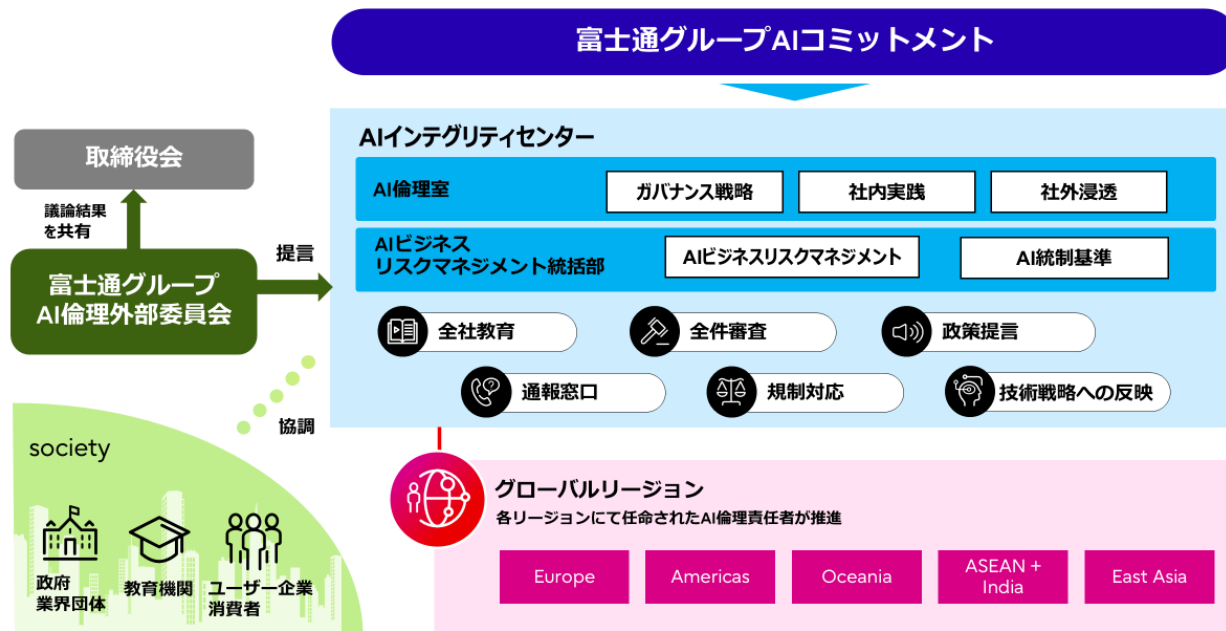
引用元：[Alliance Bernstein「AIをめぐる倫理と規制：迷路
を進む方法」\(2024/7/5\)](#)

引用元：[Glass Lewis "2025 Benchmark Policy Guidelines"](#)

弊社では、AIガバナンスを早くから「**経営課題**」と捉え、AI倫理とガバナンスを組織文化としてトップダウンで根付かせるために、**経営陣主導**で取組みを重ねてきました。

富士通のAIガバナンス体制の特徴

弊社が行っているAIガバナンスをご紹介します。「AI倫理」と「AIビジネスリスクマネジメント」の両軸から、企画～運用まで一貫したAIガバナンスを全社レベルで実装しています。



富士通グループAIコミットメントの公表

客観性を担保するためAI4Peopleの知見をもとに、
AIを開発・提供する企業として守るべき項目をとりまとめました。

富士通グループ AI コミットメント

情報通信技術の進歩、とりわけ人工知能（AI）の急速な進歩は、人々の生活やより社会を劇的に変えつつあります。同一次元で生み出される膨大なデータはAIにより分析され、ものづくり、金融、医療、交通、物流、農業といった人々の生活に欠かさない分野で直面する社会課題や、水不足、温暖化、砂漠化のような課題問題に、新たな解決方法を開き出しつつあります。

その一方で、不当な差別など、AIが思いもよらぬ副作用をもたらす可能性も指摘されています。人の尊厳を大切に、豊かで夢のある未来を創るために、富士通グループ（以下「富士通」）は、AIを開発・提供する者の責務として、便利だけでなく、安心・安全な利用を実現することが不可欠であると考えます。

2009年、富士通は、人を中心としたICT社会の実現を目指す Human Centric という考えを発信しました。2015年に掲げたコンセプト「人と協調する、人を中心とするAI」は、AIを倫理的に正しく使うという価値観をすでに内包していました。今般、富士通は、Human Centricの理念のもと、「富士通グループAIコミットメント」を制定しました。富士通は、このコミットメント（お客様・社会への約束）を通じて、AIの開発者・提供者として自らを律し、お客様から信頼されるビジネスパートナーとしてお客様のビジネス変革を支えるとともに、お客様、お客様のその先のお客様（エンドユーザー）や外部の職者を含めた社会のステークホルダーと対話を重ねながら、AIがもたらす豊かな価値を広く社会に普及していきます。また、このコミットメントについては、外部の職者等で構成される委員会を設置し、その客観的な評価を取締役会と共有することで、AI倫理に関するコーポレート・ガバナンスの充実を図ります。

1. **AIによってお客様と社会に価値を提供します：**富士通は、グローバルに展開するグループ全社をあげて、先端技術を活用した共創を進じ、お客様、社会の豊かな未来創造に取り組んでいます。継続的に開発が進むAIのエンドユーザーや社会に与える影響に配慮しつつ、お客様に寄り寄り、お客様のとの共創によって新しい価値を提供します。
2. **人を中心に考えたAIを目指します：**富士通は、Human Centricの理念のもと、あらゆる人の可能性を広げ、それぞれが望み形で幸福を追求したり社会に貢献したりすることを支援するツールとしてAIを位置づけず、プライバシーを守り、人が差別を受けたり人が危害を受けたりすることのないよう公平や安全を配慮して実装することにより、人が安心して利用できるAIを目指します。
3. **AIで持続可能な社会を目指します：**富士通は、持続可能な開発目標（SDGs）に積極的に取り組んでいます。AIの研究・開発・提供を通じて、様々な社会課題や地球規模の問題に挑戦し続け、より良い社会の構築とお客様の長期的な成功に貢献することを目指します。
4. **人の意思決定を尊重し支援するAIを目指します：**富士通は、AIが導き出した提案や結果について、人が吟味して意思決定することが重要であると考えます。AIによる自動化を推進するにあたって、システム全体として、提案や結果の根拠を的確に示す仕組みを提供することを目指します。
5. **企業の社会的責任としてAIの透明性と説明責任を重視します：**富士通は、社会の基盤としてあらゆる人に開くものになっている情報通信技術が担う社会的責任の重さを自覚して、とくにAIについては、望ましくない、または不測の結果をもたらさないよう出向向けに努めるとともに、必要に応じて原因を究明できる仕組みを構築して、安心・安全な社会システムを目指します。

富士通株式会社 2019年3月



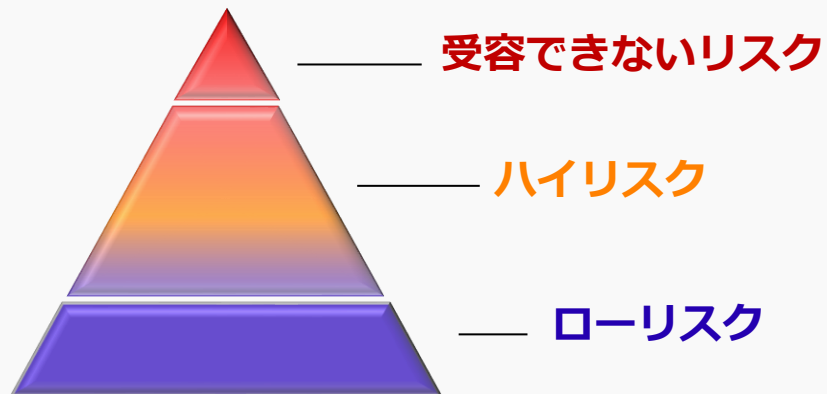
弊社が提供するすべてのAIサービスを対象に、EU AI Act に準拠したリスクベースアプローチによるAI倫理審査プロセスを導入しています。



PJ担当者によるスピーディーな
AI倫理リスク判定

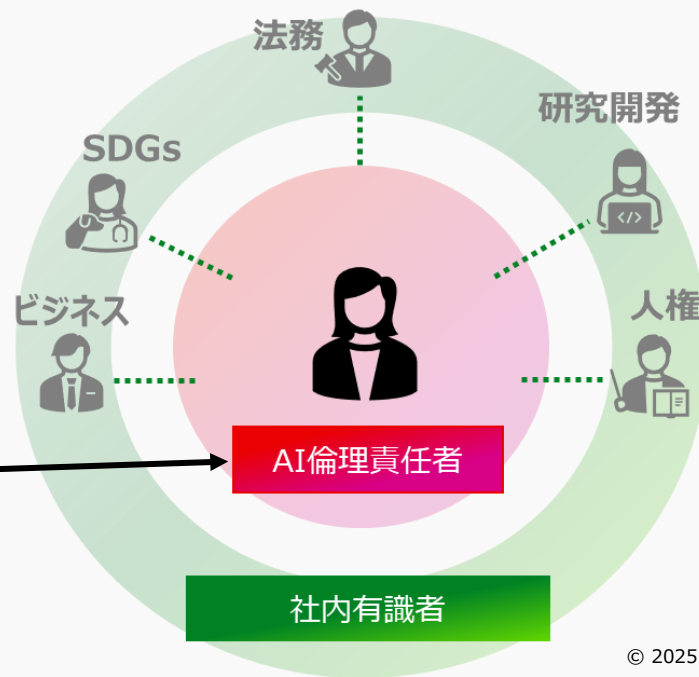
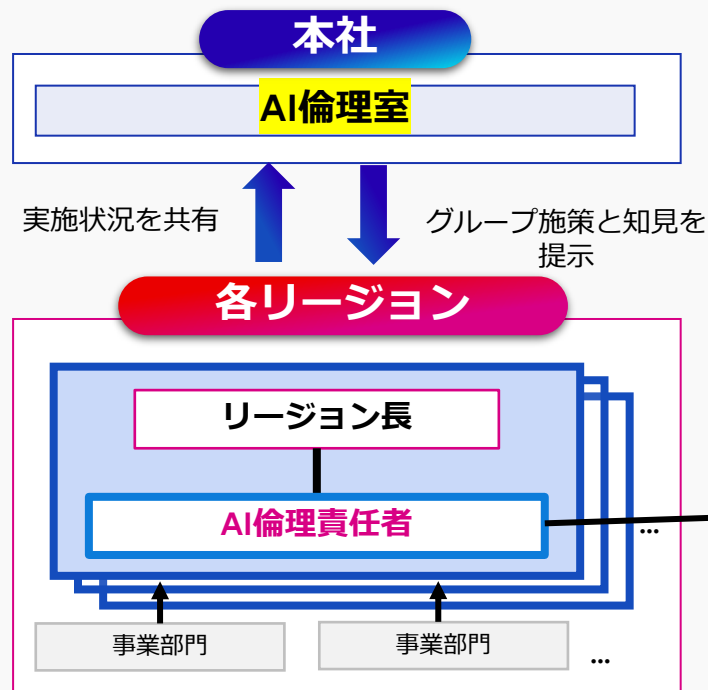


リスクに応じて、法律・事業部・SDGs等
多部門の社内有識者による重点審査



グローバル体制の構築 (多様性の確保)

本社体制と同じく、工学系エンジニア、社会科学、人文系人材など多様なチームを巻き込んだ体制づくりを、海外の各リージョンにて行っています。



社外の多様な専門家で構成される委員会

- ・富士通のAI倫理の取組みについて、**経営者に直接助言**を行います。
- ・透明性を確保するため、委員会の議論は**取締役会に報告**されます。

多様な専門分野で構成された、6名の委員会メンバー



辻井 潤一 委員長

文化功労者(2024年)
産業技術総合研究所 情報・人間工学領域フェロー、
東京大学名誉教授、マンチェスター大学教授他



君嶋 祐子 先生

慶應義塾大学 法学部・大学院法学研究科教授、弁護士、
サイバーフィジカル・サステナビリティ・センター代表他



国谷 裕子 先生

ジャーナリスト、東京藝術大学理事(SDGs推進室長)他



武部 貴則 先生

イグノーベル賞受賞(2024年)
東京科学大学教授、大阪大学大学院医学系研究科教授、
シンシナティ小児病院オルガノイドセンター 副センター長他



板東 久美子 先生

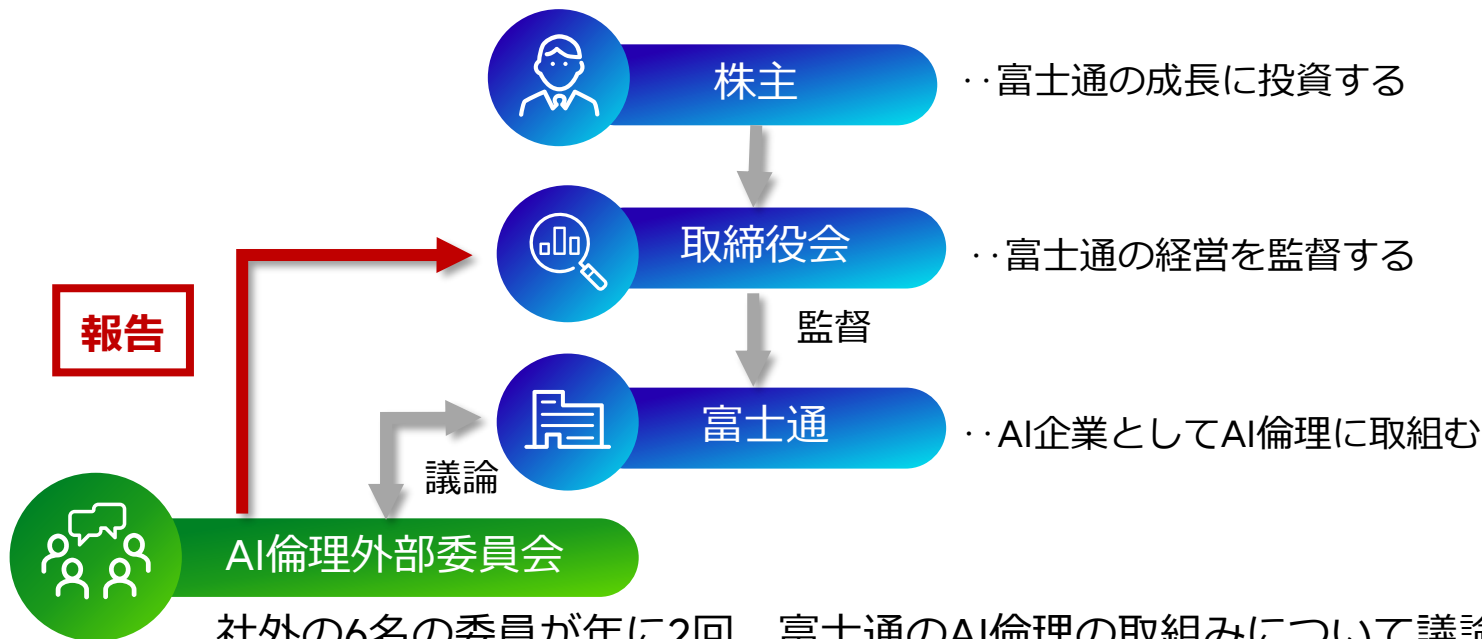
元消費者庁長官、日本赤十字社常任理事、
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事他



湯本 貴和 先生

きょうと生物多様性センター長、日本モンキーセンター所長、
京都芸術大学客員教授他

コーポレートガバナンスとしてAI倫理に取り組んでいます。



社外の6名の委員が年に2回、富士通のAI倫理の取組みについて議論。
議論・提言いただいた内容は取締役会へ報告する

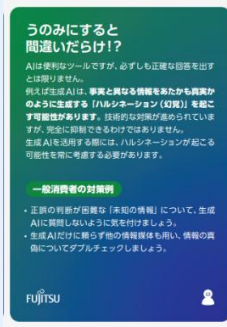
新コンテンツ：Fujitsu AI倫理かるたの公開

AIの倫理リスク・対策例を、「あ」～「ん」までの札で解説する「[Fujitsu AI倫理かるた](#)」を公開

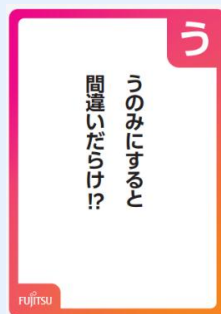
取り札(おもて)



取り札(うら)



読み札(おもて)



読み札(うら)



- ・ カジュアルなイラストを多用しているため、AI倫理初心者でも楽しく学べる。
- ・ 内容については「AI事業者ガイドラインv1.1」(総務省・経済産業省発行)の「共通指針」を参考にしており、客観性・網羅性が考慮されている。

[かるたPDFのURLはこちら！](#)





ハンドル

経営戦略に沿ったAI活用戦略の
策定・推進



エンジン

AI



ガードレール

経営戦略を効果的に推進する
ガバナンス

Thank you

